

3年生



大豆の収穫

～大豆はかせになろう～ 2021.11.5



＊11月5日(金) 待ちに待った「大豆の収穫」の日を迎えました！

心地よい秋の風を感じながら、みのり会さんのご協力を得て、大豆の収穫をしました。



9:15 なかよし広場に3年生全員が集合。
活動の「めあて」と「流れ」を確認しました。



9:30 学校の北にある畑に移動。みのり会のみなさんと合流。
元気にあいさつをした後、大豆の収穫方法を教えていただきました。



<大豆の刈り取り>



<昔の脱穀機を使用>



<最新の脱穀機を使用>

9:40～12:00 「怪我をしないように気を付ける」を目標に、クラスごとに3つに分かれて作業しました。



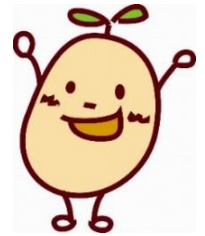
＊一粒の大豆から、大量の大豆ができました。

「一粒の大豆から100個以上の大豆ができています！」

子どもたちは大興奮でした。約半年でたくましく育ち、多くの種をつけた大豆を使って、12月15日に「太子味噌づくり」1月26日に「豆腐づくり」を予定しています。そして、2月には、大豆を育てるお手伝いをしてくださった「みのり会のみなさん」、来年大豆を育てる「2年生」、子どもたちの成長を喜び、大豆の話を熱心に聞いてくださっている「3年生の保護者のみなさん」に向けて「大豆発表会」を予定しています。大豆を収穫した後も、大豆の学びはまだまだ続きます！



活動が新聞に掲載されました！



児童ら大豆収穫体験



太子町 地元ボランティア団体協力
太子町立石海小学校の児童らが5月、学務室への畑で大豆の収穫と脱粒を体験した。取り組みには地元住民らが協力し、子供たちは指導を受けながら農作業に汗を流した。

収穫した大豆を脱粒する児童たち—太子町立石海小



同校では、15年前から3年生が総合学習の授業で大豆栽培に取り組んでいる。授業には、地元住民でつくるボランティア団体「福地農会」が協力。農地や機材などを提供し、栽培指導に当たっている。

今年度は6月上旬に種まきが行われ、ポットで育てた苗を畑に移植。草取りなど手入れを進め、10月上旬には枝豆として一部を刈り取っていた。

この日、畑に入った児童らはメンバーからコツを教わりながら大豆を収穫。モーター付きの動力脱穀機と昔ながらの足踏み式脱穀機の2種類の機械を使い、房を鈴なりに付けた株から豆を選り分けた。「脱穀機から振動が伝わり、力のいる作業だった」と和田岳大君(9)。松浦秀樹会長は

「この経験が子供たちのいい思い出になればうれしい」と話していた。

3年生は今後、収穫した大豆を使い、みそや豆腐を作る予定。学年末には、来年この授業に取り組み2年生に体験を伝えることとしており、同校では「この取り組みを大切な伝統行事として受け継いでいきたい」としている。

